

令和6年5月13日 放課後等デイサービスはらペコ 職員研修③

福岡市南区柏原にある「放課後等デイサービスはらペコ」さんの職員研修の講師をさせていただきました。

「放課後等デイサービスはらペコ」さんは、食べることは生きることをモットーに昼食はもちろん、おやつも大切な一食と考え、旬の野菜や果物を使った、栄養のある手作りのものを提供し「食べるって楽しい」「食べるって幸せ」という想いをみんなで共有することを目指した「食育」に力を入れていらっしゃいます。

全6回のプログラム(2ヶ月に1回)で職員研修を担当させていただきます。

第3回目の今回は、

「子どもの意欲を伸ばす大事な視点」

をテーマにスライドを使った講義とグループワークを行いました。

講義の内容は、

- ①発達障がいへの偏見と誤解
- ②常識や普通の難しさ
- ③放課後デイで出来る特別支援
- ④子どもの意欲を伸ばす視点

以上の4点です。

発達特性を持つ子どもへの支援を行う場合、まずは支援者側が発達障がいに対する正しい知識と子どもの立場に立った視点を持つ事が必要不可欠です。

支援者なんだからそんなことは当たり前と思われるかもしれませんが、実は無意識に大人側の常識に当てはめて判断し、否定的かつ感情的に関わっていることが多いものです。

「そんな事くらい出来るはず。」

「本人のやる気次第。」

「何で〇年生なのに出来ないの？」

「何度言ったら分かるの？」

「全ては努力不足」

「発達障がいだから仕方ない」

このような気持ちになった事があるという支援者、または実際に言葉にしてってしまったという支援者は少なくないと思います。

これは、私たち放課後デイの職員だけでなく、保護者や学校の先生にも当てはまることです。

頭では適切な支援方法や効果的な関わり方が分かっているのに、忙しい毎日の中、時間に追われ、余裕がなく、孤立し、焦りばかりが募っていくと誰しもイライラ感情的になるものです。

毎日を生きたために子どもも保護者も支援者もみんな大変です。

そんな中でも、子どもも保護者も支援者も本当によく頑張っています。

うまくいかない事を誰かのせいにするのではなく、お互いに協力し合い、一つ一つ焦らずにスモールステップで根気よく進めていくためには、子どもも保護者も支援者も孤立しないことが何より大切です。

そこで、今回は研修を通して、発達障がいに関する正しい知識と子どもや保護者の意欲を伸ばすポイントを学び、放課後デイだからこそ出来る効果的な支援を使って、誰も孤立することのない協力体制を実現する方法を見つけていきました。

今回の研修の中でも「はらペコ」の職員の皆さん全員が、何よりも子どもたちの為、そして子どもたちへの日々の支援をより良いものにする為に楽しく真剣に研修に参加されていました！

この度は、職員研修の講師に呼んで頂き誠にありがとうございました。残り3回の研修も何卒よろしくお願い致します。

